

令和元年度第2回さぬき市男女共同参画推進協議会 会議要旨

- 1 日 時 令和元年7月22日（月）14：00～16：15
- 2 場 所 さぬき市志度保健センター 会議室
- 3 出席者 【委員】尾崎委員 金子委員 亀井委員 多田委員 筒井委員 南田委員
村上委員 山中委員
【事務局】向井総務部長 酒井室長 三宅係長
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議次第
 - 1 開会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 議事
 - (1) 意識啓発につながる事業協議
 - (2) その他
 - 4 閉会
- 6 配布資料

資料1 令和元年度男女共同参画推進事業計画表

資料2 令和元年度さぬき市男女共同参画週間事業実施報告書
(男女共同参画週間セミナー、パネル展)

資料3 「男女共同参画につながる事業協議」関係資料
- 7 議事の経過及び発言要旨

発言者	意見概要
	＜ 開 会 ＞ (14:00)
事務局	<p>本日は、御多忙の中、御出席いただきありがとうございます。</p> <p>ただ今から令和元年度第2回さぬき市男女共同参画推進協議会を開会します。</p> <p>はじめに、さぬき市男女共同参画推進協議会 村上会長がごあいさつを申し上げます。</p>
会長	＜会長あいさつ＞
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>つづいて、会議の公開についてです。本会議は、「附属機関等の委員の構成及び会議の公開に関する指針」に基づき、「原則公開」となっています。</p> <p>本日は、協議会の傍聴要領に従い13時30分から受付しています。いまのところ傍聴の希望はありませんが、会議途中で傍聴希望があった場合には、随時許可することとします。</p> <p>それでは、議事に入ります。進行につきましては、さぬき市男女共同参画推進協議会規則に基づき、村上会長にお願いします。</p>

<p>会長</p>	<p>よろしくお願いします。なお、本日の会議についてですが、終了予定時間を16時としたいと思いますので、ご協力よろしくお願いします。</p> <p>早速ですが、今年度の事業計画に関連する議事として、議事1「意識啓発につながる事業協議」について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p><資料1、資料2、資料3に基づいて説明></p> <p>■男女共同参画週間事業に関する実施報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施概要報告 ・資料2「別紙(3)男女共同参画週間パネル展 来場者集計」に関する説明 パネル展の実施に当たり、男女共同参画推進市民サポーターに対してパネル展示の意義を次のとおり3点に整理して確認・共有した。 <ul style="list-style-type: none"> ①市民サポーター自身が、男女共同参画に関する学びを得ること ②市民とのふれあいから「市民の男女共同参画意識」を肌で感じる ③男女共同参画に携わる仲間とのネットワークを広げること その結果、市民サポーターからは、次のとおり気づきや意見が報告された。 <ul style="list-style-type: none"> ①パネル展は、日常生活では意識しない課題に気づく「きっかけの場」として機能している ②しかしながら、市民側から歩み寄ってくるのを待つ「受け身型：プル型の情報発信」であるため、市民の興味や関心を引くような多様な啓発活動と組み合わせることで実施することが求められる ③市民の思いに沿った取組を実践するためには、興味関心の所在を探る「対話：コミュニケーション」が大切である <p>■今後の事業予定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月実施予定「第2回男女共同参画セミナー」について 当初、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を意識した親子料理教室を計画していたが、東洋大学(東京都)と連携して姉妹都市アイゼンシュタットに関連した国際交流事業に変更する。 姉妹都市交流をはじめとする市民の国際理解を促す活動は、性別や年齢、国籍などに関係なく、地域で共に暮らしていく社会を築くために必要な取組であり、男女共同参画プランに定める「多文化共生への理解促進」につながる事業となる。 ・市民サポーター提案事業「地域で生活するなかで、課題や問題意識を持っている人たちから意見を聞き取る場をつくる活動」について 10月に津田町ふるさと海岸にあるカフェでの開催に向けて計画している。 さぬき市で何らかの活動に挑戦したいと思っているが、どうすればよいかわからない人を対象に、行動を起こしてもらうきっかけづくりの場にしたいと考えており、男女共同参画プランに定める「市民主体の活動への支援」につながる事業となる。 ・外国人技能実習生受入状況等調査について さぬき市に暮らす外国人住民の7割以上を占める外国人技能実習生の実態を把握するため、10数事業所に協力を仰いで実態調査を予定している。男女共同参画と国際交流が横方向に展開する取組の一つである。 <p>■「意識啓発につながる事業協議」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回会議で委員から提案された「多くの委員が解決すべき課題と感じている『知識はあっても実践できていない市民、または、そもそも男女共同参画への関心が低い市民への啓発のあり方』をテーマに議論してはどうか」との意見に基づき、「これまでの啓発活動が効果を発揮しなかった市民への意識啓発」について議論する。

会長	<p>ありがとうございました。事務局からの説明を整理したいと思います。 まず、事業報告に関連して、「コミュニケーションが大切」と気づくに至った経緯について説明してもらえますか。</p>
事務局	<p>詳しくは「資料2〔別紙(3)〕」を確認いただきたいが、ポイントは2点ある。 ①パネル展などの啓発活動の場で来場者とのコミュニケーション(対話)を行うことが「今後の活動に向けた気づきを得る機会になる」という事実により市民サポーター自身が再認識できたこと ②一方、自分たちの活動の様子を振り返ると、たとえばパネル展で「男女共同参画につながる市民企画事業」を展示してきたものの、果たして自分たち以外の活動内容に対して注意を払い、展示内容から気づきを得ようと意識的に行動してきたかどうか?との自問自答が生まれたこと こうした経緯を踏まえ、男女共同参画プランに定める「市民主体の活動」を促すためには、市民だけでなく、市民主体の活動を行う団体や事業所、行政などが相互理解を深められるよう積極的にコミュニケーションを取るとの再認識が得られたと理解いただきたい。</p>
委員	<p>事務局が説明したポイントは、私自身の経験に基づくものなので補足説明する。 パネル展に来場した、乳児を連れてきた母親に「若い人たちに男女共同参画の大切さを伝えたいけれども、なかなかうまく広まってくれない。どうしたらよいだろうか?」と問いかけたところ、夫婦であっても、家庭内で家事や育児について話し合う機会は少ない。若い世代や子育て世代も不平・不満だけでなく建設的な意見も持っているもので、思いを共有できる場が身近にあればよい、との答えだった。 行政が取り組むとすれば、従来のように女性だけが集まって話し合うのではなく、男性も交えて話し合える場を提供することが大切ではないだろうか。その意味では、事務局から説明のあった「カフェでオープンに話す」というアイディアは良いと思うし、小さなコミュニティ単位で2～3人が集って話し合える場があれば、地域のつながりには役立つと感じる。 たとえば、「男女共同参画にちなんだ〇〇〇〇〇カフェ」と銘打ち、5人程度が集う活動から始めてはどうか。このような場合、すぐ行政は「会合の名称は」「定員は」「運営は」などと形式にこだわるが、それでは一人ひとりの個性を尊重する男女共同参画の思いを持つ人たちは興味を失ってしまう。 一人ひとりの個性を大切にしているのは、若い世代もシニア世代も同じはずだ。これまでの行政のやり方を踏襲しないこと、見直すことも必要だ。</p>
事務局	<p>現在、さぬき市では子育て世代がオープンに話せる場、保護者が交流できる場として家庭教育支援の観点から「気ままガーデン」を、また、子育て支援の観点から「地域子育て支援センター」を運営している。なお、地域子育て支援センターとは、保育所や幼稚園に通っていない子どもとその保護者たちが自由に遊べる場として、市内5か所の保育所に併設しているものである。 先ほどの委員からの意見は、このような活動がもっと市民に認知される必要があると理解すればよいか。</p>
委員	<p>数年前、親族が高松市内の地域子育て支援センターに通っていたが、残念ながら「母親と子どもしか参加できない雰囲気」があり、同じく保護者である父親や祖父母は参加しづらかった。これでは育児参画を促すのではなく、妨げているのではないかと感じた。子育てや教育の現場では、男女共同参画の考え方自体は理解できていても、</p>

	<p>本当の意味で実践できるほど浸透していないと実感した瞬間だった。同じような課題は、さぬき市でも起きている可能性がある。</p> <p>活動を進めるときには、単純にオープンな場所を提供するだけではなく、男性も女性も関係なく自由に意見を述べることができ、気兼ねなく一緒に活動できる環境を作ることが、本当の男女共同参画社会につながるのではないか。</p>
会長	<p>貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>次に、事業変更に関連して、「国際交流事業」の概要について説明してください。</p>
事務局	<p>ドイツ語を学び、オーストリアへの短期留学も経験した学生たちが「姉妹都市交流を通じて地域の活性化に取り組めないか」と検討する中で、オーストリア共和国・アイゼンシュタット市と姉妹都市を結ぶさぬき市に相談を持ち込んだことが発端である。</p> <p>さぬき市でも活動方針を整理していたところだったため、連携事業が決定した。</p> <p>具体的活動としては、11月に小学生の親子を対象に、家族で協力してクリスマスリース飾りを作る教室をみろく自然公園で開催する予定である。教室ではヨーロッパでのクリスマスの過ごし方や文化の違いなどを紹介する紙芝居で異文化理解を促すなど、学生が主体となって準備を進めている。</p>
会長	<p>祝日に開催する家族参加型イベントなので、先ほど委員が指摘した男性の保護者も参加できる活動と評価できますね。この会議で議論してきた広報啓発方法については工夫しているのでしょうか。</p>
事務局	<p>広報啓発も含めて学生に企画立案してもらうことで、これまでの行政発信とは違ったイベントづくりを模索している。学生からは「自分たちでSNSを活用した情報発信をやりたい」「イベント準備の様子も発信することで、国際交流への関心を高めたい」といった意見も出ており、さぬき市側としても学生たちの責任の範囲で発信すれば問題ないと活動を支援している。</p> <p>学生の自由な発想の中で行政広報に役立つ手法があれば、積極的に取り入れたい。</p>
会長	<p>どれくらいの参加者を想定した活動ですか。</p>
事務局	<p>募集は親子20組を予定している。</p>
会長	<p>定員が少なく感じますが、会場規模に合わせて参加者数を制限しているのですか。</p>
事務局	<p>会場規模に合わせて参加者数を決定したのではなく、「事業の目的」に合わせて適切な会場や参加者数を決定したと理解いただきたい。</p> <p>この事業は、日本と外国のクリスマスの楽しみ方の違いを知ることで、子どもたちに異なる文化の存在に気づいてもらうことなどを目的としている。この異文化理解を促すという事業の性格を踏まえて、参加者に確実にメッセージを伝えることができる範囲を考慮して参加者数を設定したと聞いている。</p> <p>学生たちは実際にさぬき市を視察して場所を選定するなど、大変意欲的に活動していることから、原則として学生たちの自主性を尊重した活動を心がけている。</p>
委員	<p>参加するのが親子20組であっても、本当に楽しんでもらえれば、情報はクチコミやSNSなどを介して周囲に伝わる。今回の場合は小学生の親子を対象にした教室なので、「さぬき市で新たなおもしろい活動がはじまった」と拡散すれば、十分な啓発効果が</p>

	<p>あったと評価できるだろう。</p> <p>また、メッセージを伝えることを重視しているとの説明だったが、参加者に情報を伝えるためには、情報の伝達を妨げる要因を取り除く工夫も必要だろう。例えば、幼いきょうだいを連れた保護者は、きょうだいの面倒に気を取られ、せっかくのイベントを楽しめなかったり、メッセージを受け取り損ねたりするかもしれない。その場合、託児対応やキッズスペースを設けることなども検討すべきだろう。</p>
事務局	貴重な意見に感謝する。託児対応やキッズスペースの設置について学生と協議する。
委員	丁寧な活動を心がけ、親子に「国際交流っておもしろい、楽しい」と印象付けようと試行錯誤する学生たちの活動は大変評価できる。これは男女共同参画活動においても必要であり、役に立つ知見だろう。
会長	委員の意見を聞き、アイデアが浮かんだので私からも提案します。 男女共同参画週間パネル展を開催していた市民ホールで、姉妹都市交流に関する文化展示や親子が制作したクリスマスリースを展示してはどうでしょうか。自分たちが作った作品が公共スペースに展示されると、クチコミ効果が増すかもしれません。
事務局	姉妹都市交流に関する展示コーナーについては、学生たちが企画を進めているところである。なお、クリスマスリースは、それぞれの家庭に持ち帰ってクリスマスの風習を学ぶために役立てることを第一の目的としているため、親子が制作した作品を展示することは難しいが、学生が制作したものを展示することは可能だと考えられるので、託児対応やキッズスペースの設置とあわせて協議させていただく。
会長	ありがとうございました。 次に、「市民サポーターからの事業提案」の概要について説明してください。
事務局	会場候補地は、若い世代からシニア世代までが集まるオープンカフェである。このカフェの特徴は、店主と客がコミュニケーションを楽しんでいるところであり、市民サポーターから提案のあった条件「気軽に意見交換できる場所」にも合致していることから、店主に事業を相談したところ快諾を得た。 実施計画については、店主とも協議しながら進めているところであるが、まずは「楽しくやってみよう」という気持ちを大切に試行的な実施を想定している。
委員	津田ふるさと海岸で日曜朝市を開始させたメンバーを巻き込むことも想定されるが。
事務局	事務局も同じように考えて店主と協議したが、まずは一般市民に参加を呼びかけるべきではないかの結論に至った。この活動とは、新たな地域の関係性を生むことを目指した活動であり、地域の未来につながるのは新たな人材を発見することだろうと意見がまとまったためである。
会長	ありがとうございました。 次に、「外国人技能実習生受入状況等調査」ですが、外国人技能実習生が抱える課題は明らかになっているのですか。
事務局	現在、外国人住民の生活実態を全く把握できていない。そこで、日本人住民と外国人住民が互いに安心して暮らせる地域につながる手がかりを得るのが、今回の調査の

	<p>目的である。</p> <p>本来であれば、外国人技能実習生から直接聞き取りするのが理想だが、実習に支障が出る恐れがあること、言語の壁があることなどから、次善の策として「受入事業所」の担当者から聞き取り調査を実施し、実態把握に努めることにした。聞き取り項目については検討しているところだが、宮城県塩釜市で同様の調査を実施したと聞いているので、今後も情報収集を行いたいと考えている。</p>
会長	外国人住民の調査は、国からの指針などに基づいて行っているのですか。
事務局	外国人技能実習生の受入体制や研修制度などについては指針などが整備されているものの、今回実施する調査に関する指針などはない。外国人住民の現状把握の必要性を感じたさぬき市が単独で実施するものであり、調査に当たっては、関係部署などと連携しながら実施する予定である。
委員	最近、外国人材の活用がマスコミで騒がれているが、都道府県や市町村では実態を把握できていないということか。
事務局	<p>香川県の場合、外国人材活用の流れを受けて、今年度から新たに協議会を設置したばかりである。さぬき市でも外国人住民の人口や属性などは把握できているものの、外国人住民の具体的な生活実態までは把握できていない。</p> <p>一方、外国人住民には外国人技能実習生のみならず、留学生や高度専門人材、永住者など幅広い属性の人たちが含まれており、すべての外国人を包括して取扱うのは余りにも乱暴である。そこで、まずは市内外国人住民のうち最も大きな割合を占める外国人技能実習生の把握から開始しようとしているのが現状である。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて、「意識啓発につながる事業協議」に移ります。</p> <p>資料3に記載されている内容について、事務局から補足説明をお願いします。</p>
事務局	<p>前回の会議では、さぬき市が抱える課題を明らかにしようと、委員から多くの意見が出された。その出された意見について、事務局において進行に沿って10のポイントにまとめたのが「資料3」である。会議進行を振り返る参考として活用いただきたい。なお、資料では改善すべき点ばかりが列挙されているように感じるかもしれないが、これは協議の目的が「さぬき市が抱える課題の抽出」だったためであり、委員が正しい課題認識を持って議論した証だにご理解いただきたい。</p>
会長	<p>前回の協議は、具体的な事例を取り上げることをヒントに、さぬき市が抱える課題を探る作業を行ったと理解すればよいですね。</p> <p>それでは、前回明らかになった課題、また、議論を振り返るなかで新たに気づいた課題などをもとに、議論を深めていければと思いますが、事務局では、議論の着地点を想定しているのでしょうか。それとも、委員で自由に発言してよいのでしょうか。</p>
事務局	<p>本日のテーマ「これまでの啓発活動が効果を発揮しなかった市民への意識啓発」を実現するためには、着地点を想定した予定調和を目指す議論では答えを導き出せないと理解している。委員には、制約なく自由な議論をお願いしたい。</p>
委員	前回配布された『さぬき市総合計画中期基本計画』を読むと、さぬき市という地方

	<p>自治体は「若い世代の人たちが自由に話し合える場」を作りたいこと、そして「その中核となって活動するようなチームや市民」を欲していると読み取ることができた。この総合計画の理念は、市民主体の活動を目指す男女共同参画プランと考え方が同じだと理解している。</p> <p>若い世代を動かすための仕組みづくりには、①行政が必要な施策に予算を付けて責任を持って実行することで、地域に「行政の本気度」を理解してもらうこと、②モデルケースを指定して地域で実践してもらうなど、行政の思いが地域に浸透する仕組みを作ること、③事業報告会を開催して具体的な成果を周囲に拡散させるなど、実践だけで終わらせない工夫をこらすことなど、単年度ではない3～10年がかりの中長期的な地道な取組が必要である。そして、こうした活動を実現させるためには、さぬき市がどれだけ主体性・責任感を持って支援できるのかが重要だろう。行政が「市民から生まれた主体的な活動を大切にしたい」と考えるのであれば、その理想の実現につながる投資を惜しんではならない。</p> <p>前回の会議で、私はPTA活動を例に挙げて説明したが、市民が主体となって地域で活動するためには、活動できる場、活動を担うリーダー、そして活動を支える資金が絶対に必要であり、そこから目を背けてはならない。また、これまで地域を支えてきたリーダーたちが、本気で後継者を育成する気持ちを持つことも必要だろう。前回の会議では婦人会活動を例に挙げて説明したが、世代間のギャップを埋めることに注力するよりも、次世代の活動を担う意欲ある人たちの参画を妨げている制約条件「時間」「資金」などの面をサポートすることが必要ではないか。</p> <p>繰り返しになるが、地域を活性化するためには、地域の事情に合った活動を地道に継続するしかない。地道な継続がなければ、さぬき市は5年が経過した後も何ら変化のない地域のままだろう。</p>
会長	たしかに、さぬき市の婦人会活動は大変熱心ですね。
委員	<p>たしかに婦人会は地域に根ざした団体として多方面で活躍しているが、構成メンバーの高齢化が確実に進んでいる。また、古き良き団体ゆえに、行政からの依頼に対して絶対的に従う部分がある。このため、若い世代を中心に「行政に体よく使われているのではないか？」などと活動のあり方に疑問を感じる人も多いと聞く。</p> <p>若い世代の人たちは、自主性を尊重する学校教育、もしくは私たちが進めてきた男女共同参画意識の浸透という効果もあってか、自分自身が納得できる目的や理由を第一に考えてボランティア活動に従事する傾向がある。一方、シニア世代のメンバーは「私たちが守ってきた伝統を大切にしてほしい」との思いを持っていて、意見対立の原因にもなっている。この活動方針を巡る主張の対立こそが、世代間ギャップの原因ではないか。</p> <p>こうした対立は、夫婦間、家族間、友人間、地域間、国家間など、さまざまな場面で起きているが、まさに男女共同参画意識の浸透を妨げる課題と同根だと感じている。現在は婦人会活動がまだまだ盛んだが、世代交代がうまく進まなければ10年後には自然消滅している可能性すら否定できない。先ほど委員が述べたように、これまで地域を支えてきたリーダーたちが、本気で後継者を育成する気持ちを持つことが必要だと感じる。</p>
委員	若い世代の人たちも、決して地域で活動したくないわけではない。さぬき市内にも今後の活動を担う中核となる候補は存在しているが、大きくなって自立できる段階まで育てる努力が欠けていることが課題ではないか。そこで必要となる要素こそが、活動できる場、活動を担うリーダー、そして活動を支える資金だと感じている。

委員	<p>モデルケースといっても難しいことを求めているわけではない。生活の中で感じたちょっとした気づきを発表してくれたら十分だ。大切なのは「おもしろい」「楽しい」と感じてもらい、息長く活動を続けてもらうことだ。地域の核となる組織、核となる団体は、一朝一夕には育成できない。地道に活動を支援していくしかない。</p> <p>真の地域活動とは、例えば行政や学校で働く教職員が「参画したい」「仕事後にお手伝いしたい」と思える活動だろう。</p> <p>近年、ワーク・ライフ・バランスの推進や働き方改革の進展に伴い、仕事以外の時間の過ごし方が大切だと叫ばれているが、残念ながら「充実した私生活」のあり方を考える意識は育まれていない。これまで意識してこなかった組織でも、ちょっとした知識を持つ人物が加わることで何か変化が起きるかもしれない。そのきっかけとして教職員自身が地域活動に参画することは意味あることだと感じる。</p> <p>一方で、教職員たちが魅力を感じないような活動には、やはり何らかの問題が潜んでいると考えるべきだし、魅力のない活動に対して、地域住民に「参画してください」と行政が訴えかけることは何か間違っていると感じる。</p>
委員	<p>地域の魅力ある活動のためには、自由に議論できる環境が大切であり、そのためには多様な価値観を持った住民に参画してもらうような仲間づくりが大切だという意見は大いに納得できる。</p>
委員	<p>地域で活動する人たちに声をかけて、変化を促すことはできるだろうか。</p>
委員	<p>子育て世代を中心にした若い世代は「家庭単位」を大切に行動しているように見える。地域活動に関わると、どうしても時間の制約や家庭の負担増加といった問題が起きるが、若い世代や家庭単位だからこそ楽しめる地域活動もある。地域で活動する魅力を理解してもらえるように伝えることができれば、大きな可能性を秘めていると感じている。</p>
委員	<p>家庭単位、そして、家庭生活における男女共同参画の視点から述べたい。</p> <p>書店に並ぶ書籍の中には「女性は共感することを望む」「男性は問題解決を求める」など、時には極端なものを含む多様な意見があふれているが、家庭生活における問題の多くは、男女間の認識のズレから生じていることについては異論がないであろう。例えば、男性は食事や料理といった「名のある家事」の存在は理解できても、円滑な家庭生活を支える「名のない家事」の存在には気づきもしない、また、理解しようとしていない。よりよい家庭生活を営むためには、男女が互いを支え合い、理解し合うことが重要であり、それを支えるのが「言葉遣い：コミュニケーション」だと感じる。正しい言葉を選ぶことができれば、互いの思いを理解して協力し合うこともできる。現在の日本では、家事時間に大きな男女格差が生じていることが統計調査などからも明らかになっているが、この問題を解決できるのは、これまで家事を担ってきた女性から男性への円滑な権限移譲だろう。そして、その円滑な委譲を支える要素こそが、互いの声かけや言葉遣い、思いやりのあり方だと感じている。</p>
委員	<p>子育て中の男性が、休日などに子どもを連れて散歩している様子を見ると、同じ男性として嬉しく感じるとともに、時代が変わったことを実感する。しかし、このような夫婦ばかりではなく、なかには「男性は仕事、女性は家庭」といった固定的役割分担意識を持ち続ける夫婦もいる。地域の中で多様性を受け入れ、それぞれの家庭のあり方について話し合える場所があれば、もっと変化するかもしれない。</p>

	<p>夫婦といえども、互いが全てを同意し合うことなどあり得ないし、当然意見が食い違う場面もある。その時に、両者が理解・納得できる方法で折り合うことができれば問題ない。こうした考えは、地域に根差した団体の活動方針を巡る主張の対立、地域コミュニティでの世代間ギャップの解決策にも通ずるものがあると感じている。</p>
<p>会長</p>	<p>言葉遣いやコミュニケーションに関する意見は、そのとおりだと感じました。書籍の中には科学的根拠に基づかない言説もあるので注意が必要ですが、男性と女性の違いを理解する助けになりますね。</p>
<p>委員</p>	<p>書籍などで目にする「脳の構造の違い」は、たしかに分かりやすい論理ではあるが、受け止め方には注意が必要だろう。例えば、家事を経験したことのない女性は、米を研ぐことはできない。当たり前の論理だが、私たちは何気なく「お母さんの料理を見て覚えているでしょう」などと心ない言葉を伝えていないだろうか。反対に、家事の経験のない男性に対して、女性が「そんなこと、説明しなくてもできて当たり前でしょう」などと心ない言葉を浴びせ、男性のやる気を失わせてはいないだろうか。このような言葉は、まさに固定的性別役割分担意識に基づくものであり、自らが使わないことは当然として、さらには「自分に対して使われた時の対処」について考えることも大切だろう。</p> <p>私たち一人ひとりとは違った考え方を持っているのだから、夫婦が共に生活する中で価値観が衝突する場面が当然あるだろう。その時、単純に怒りにまかせて拒絶するだけでは相手の態度は変わらず、ただ同じ言動を繰り返すだけである。夫婦のみならず、職場や地域の中で「そのような言葉を投げかけられるのは嫌だ」という自分の思いを表明し合える関係を築くことができればよいと思うが、具体的な方法までは思いつけていない。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば、夫である私が初めて洗濯物を干した時のことを思い起こすと、家事経験のない私は目の前にある「干すこと」に精一杯で、未来にある「乾いた後の仕上がり具合」にまで気を配ることができなかった。なぜなら、初めて経験することなので未来を想像することなどできないからだ。しかし、その先に起きる未来の結末を知る経験者である妻は、できるだけ美しく仕上げようと、あれこれと助言してくる。「自分ですれば早いじゃないか」とも考えたが、言われたとおりやってみると、たしかに美しく仕上がった。それ以降、妻の手順に従って洗濯物を干すようにしている。どれほど年齢を重ねようとも、言葉のやり取りで腹立たしく感じる場面はある。そのような場面でこそ、相手の意見を受け止める努力が必要だろうし、発言する側も相手を思いやろうとする努力が必要だと感じている。互いの思いやりが通じた時こそ、両者が喜びを感じる瞬間だと思うからだ。</p>
<p>委員</p>	<p>男性と女性が同じ価値観である必要はないし、互いの個性や特色を生かせることが何よりも大切だろう。</p> <p>ところで、高校や大学の部活動では、部員を支援するマネージャーの仕事がある。マネージャーの仕事について正しく理解して運用できていれば問題ないだろうが、体育会系・男性中心社会の中で固定的な性別役割分担意識を助長するような役割を果たしていないのだろうか。</p>
<p>会長</p>	<p>固定的な性別役割分担意識を助長するような活動内容であれば問題でしょうが、位置づけや業務内容に性別に基づく差別がなければ問題ないのではないのでしょうか。</p>

委員	<p>男女共同参画推進市民サポーターについて質問したい。</p> <p>本日の会議冒頭で「男女共同参画につながる市民企画事業」に関する実績報告の様子を紹介されたが、助成金を交付した団体に対して市民サポーター加入を促してはどうか。今年のパネル展は、交付団体による受付支援が少なく感じた。助成金を採択した団体のメンバーであれば、男女共同参画を推進する必要性をある程度理解しており、市民サポーターとして活動できる可能性も高いはずだ。</p>
事務局	<p>「男女共同参画につながる市民企画事業」とは、あくまで男女共同参画推進活動を後押しする仕組みであり、男女共同参画の視点を含む活動を実践してもらうことを目的としている。</p> <p>助成金を交付した団体の中には、男女共同参画が目指す理念と自分たちの活動内容を重ね合い、新たに地域の国際化を推進するような活動を開始するといった好循環が生まれていることは承知しているが、市民サポーターとして活動するためには、自分の中から湧き上がる熱意や当事者意識が欠かせない。</p> <p>組織活動である助成金交付団体と個人活動である市民サポーターでは、目的意識や行動内容も異なってくるので、あえて強く加入を促してはいない。</p>
委員	<p>助成金を交付された団体の中でも、男女共同参画推進活動に対する温度差があることは間違いないだろう。</p>
会長	<p>助成金の交付条件に「パネル展への運営協力」を盛り込んではどうでしょうか。</p>
事務局	<p>委員からの意見を踏まえ、今後は助成金交付団体の中で当事者意識を持つ者に対して市民サポーター加入を積極的に呼びかけるとともに、助成金の交付条件にパネル展の運営協力を盛り込むなど、男女共同参画に携わる市民や団体のネットワーク拡大を意識した活動を強化する。</p> <p>また、協議会には「男女共同参画週間事業」「男女共同参画につながる市民企画事業」のあるべき姿について必要な意見や議論があればお願いしたい。</p>
委員	<p>議事内容に話を戻すと、「地域の多様性を高める若い世代の力」に対する行政の支援はどうあるべきか。若い世代の活動に対してシニア世代がフリーハンドを与え、どれだけ自由な行動を許せるか。このあたりが、本日の議論のポイントだろうか。</p>
事務局	<p>本日の会議では、地域リーダーのあり方に関する意見をはじめ、夫婦間さらには地域間でのコミュニケーションのあり方などについて委員の意見が集中していた。意見を総括すると、夫婦・団体・地域など様々なステージにおける共通課題として「意思疎通の不足」が潜んでいることが明らかになった。そして、その解決策として、前回の協議でキーワードとして挙げられた、夫婦・団体・地域などの各場面における「対話：コミュニケーション」が必要だと委員間で共有できたと理解している。</p> <p>つまり、さぬき市における男女共同参画実現を妨げている課題の一つとして、「対話：コミュニケーションが円滑に行われる環境づくりが必要ではないか」との意見にまとまると総括することができる。</p> <p>それでは、どうすれば対話やコミュニケーションがしっかり取れる環境を整えることができるだろうか。ここからは、委員が導き出した課題を具体的施策へと変換し、課題解決につなげるための議論をお願いしたい。</p>

委員	<p>男女共同参画の啓発活動が、単なる知識の押し付けに終始しては市民の理解は得られない。男女共同参画社会を実現するためには、まずは市民が地域社会の抱える課題について議論し、その背後にある本当の課題とは何かを理解・共有することが必要ではないか。</p> <p>たとえば、夫婦が老後に体調を崩すことは当然想定されるが、夫婦どちらが先に倒れるのかは誰にも予想できず、まったく家事育児を経験してこなかった夫が妻を介護するケースが多く、多くの家庭で現実起きています。これは将来起こり得る可能性を予見しながらも、あえて見て見ぬふりをしてきた結果だろう。</p> <p>また、外国人住民・労働者の話題もあったが、外国人技能実習制度も法改正が進み、条件を満たせば3年を超える技能実習が認められるようになった。この3年を超える実習生の労働・雇用条件は、日本人労働者と同等とみなされ、同職種内であれば転職も認められるようになる。つまり、3年間の技能実習を終えた中で優秀な人材は、自ら働き先を選ぶことができるようになるのである。しかし、技能実習生を受入れる日本企業は、不足する労働力を補うものとしか考えておらず、実習生を満足させる処遇を行っていないところが多いため、今後やはり人手不足に悩むことになる可能性が高い。</p> <p>ところで、この問題は外国人労働者だけに当てはまる問題なのだろうか。日本人労働者を満足させる処遇を行えないために労働力が集まらず、その次善の選択肢として外国人労働者を選択しているだけではないのか。日本人労働者であれば過酷な労働条件が嫌になって退職することもできるが、技能実習生には退職という選択は許されていない。そこで、逃走・失踪事件へと発展してしまうのだが、私たちは事件ばかりに目を奪われ、その事件の本質まで見抜けていないのではないか。</p> <p>実は、この問題は日本社会が進める「女性」「シニア」「社会的弱者」の雇用問題に通じている。つまり、これまでの会社組織や制度の問題点を棚に上げ、目先の労働力として女性や高齢者、障害者などを活用しようとしているだけではないか。問題の本質を放置したまま制度だけが走り続けると、働く仲間同士の対立やギャップを一層深めてしまう恐れがある。これまで議論してきたとおり、こうした他者を貶めるような対立は避けねばならない。</p> <p>私が経営する企業には、性的少数者（セクシュアルマイノリティ）の社員もいるが、組織の指揮・命令に従い、業務を遂行してくれているので何ら問題ない。社員を雇用する時に大切なのは、業務遂行能力であって、社員一人ひとりの社会的背景ではない。社会的背景を理由に、高い能力を持つかけがえのない社員を解雇することなど、企業としての合理的判断であるはずがない。</p> <p>また、企業ではコミュニケーション研修や幹部スタッフ研修などを開催しているが、座学を聞いているだけで理解が促される可能性は高くない。一方、実際の現場で組織や社員が困難に立ち向かうための具体的な対処法を提示すると、大いに理解が促されることは、経験から会得しているし、経営者の仲間たちも共感する点である。そこで私は、部下たちに「人としてどう生きるか」という点を問いかけ、一人ひとりの納得を得た上で指示や助言を与えるよう心がけている。</p> <p>近い将来、日本社会は女性労働力を活用しなければ立ち行かなくなる時代が到来する。その時、経営者たちは女性社員に対して「2時間でもいいから出勤してくれ」と懇願するだろうし、子育て支援の充実に奔走することになるだろう。しかし、現在の経営者の中には、自社の将来に対する中長期的なビジョンが見えていない人がいることも事実である。そうした経営者に対して、危機意識の欠如が会社の存続を危うくすることを順序立てて説明し、納得したうえで女性活躍に取り組んでもらえれば、具体的なアクションも充実し、きっと素晴らしい企業へと生まれ変わるだろう。</p>
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

委員	<p>これまでの行政の広報・啓発活動は「～であらねばならない」「～であるべきだ」といったものが主流で、「どうして目の前にある問題に行政や市民が向き合う必要があるのか」に関する議論が十分尽くされてこなかった印象がある。行政であろうと、企業であろうと、市民であろうと、それぞれの主体が「自分の選んだ選択」に納得しなければ具体的な行動やアクションにはつながらない。これからの取組に求められるのは、社会の多様性を推進することの必然性、地域の中で協力関係を築くことの必要性について、しっかり市民に説明すること、必要に応じて議論することではないだろうか。セミナーや講演会、パネル展の開催には全く効果がないとは言わないが、まずは「なぜ社会の多様性を認めることが必要なのか」「どうして地域社会での共生が大切なのか」といった課題についてしっかり議論すべきである。その結果、市民自身が「多様性を受け入れることには意味がある」と理解できれば、行政が思い描く目的は十分達成できたと言えるだろう。</p>
事務局	<p>さぬき市では、市民に固定観念にとらわれない自由で多様な生き方を選んでもらうことを目的に、中長期的なビジョンとして男女共同参画プランを策定してきた。このプランが目指す重点目標は「固定的性別役割分担意識の解消」であるが、この行政の言葉のままでは市民に理解してもらうことは難しいだろう。委員が指摘するように「社会を構成する市民が多様性を受け入れること」への市民の理解を促したい。</p>
会長	<p>さぬき市の将来につながっているのは、若い世代に多様性を受け入れてもらうことでしょう。本日は、何かの結論が出たわけではありませんが、将来に向けた気づきが得られたと感じました。熱心な議論ありがとうございました。</p> <p>次の議事に移ります。議事2「その他」について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p><次回会議日程説明></p>
会長	<p>それでは、9月30日（月）午後2時から第3回会議を開催することに決定します。なお、日時や会場など詳細については、事務局からの案内を確認してください。</p> <p>以上で令和元年度第2回さぬき市男女共同参画推進協議会を閉会します。お疲れ様でした。</p> <p style="text-align: center;">< 閉 会 > (16:15)</p>